

多摩デポ通信 第60号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2022年5月8日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三二・一八

●HP / <https://www.tamadepo.org/>

●E-Mail depo_tama@yahoo.co.jp

2022年度

通常総会開催のご案内

理事長 座間直壯

風薫る5月、コロナ前の大型連休とまではいかないまでも人の動きが戻り始めているこの頃です。

コロナ禍の中での通常総会は三回目ですが5月28日(土)に調布市文化会館たづくりで開催することになりました。中央図書館が入っている建物です。感染拡大防止策として、昨年度同様、事前に文書による表決をお願いしますが、当日会場にお越しいただき直接ご参加いただくことも出来る方法

を考えました。従って文書表決のほかに会場での表決も可能となります。

そこで、総会前の表決票提出の参考にしていただくため、総会議案書の説明を中心とした事前の意見交換会を5月17日(火)午後7時30分からZoomで開催いたします。こちらにご参加いただき表決票提出の参考にさせていただきますと思えます。昨年度と異なり、説明を聞き、質疑や意見交換を交える中でご自身の表決をなさってください。

今回で第15回目となる多摩デポ通常総会では、未だ実現しないリアルな共同保

存図書館に代わって、バーチャルな共同保存をするための仕組みづくりをすすめてきた多摩デポの取り組みを皆様にご案内したいと考えています。

株式会社カーリル(代表:吉本龍司氏)との共同研究の成果TAMALASの進展や、「たましん地域文化財団歴史資料室」の協力の計画に組まれています。

昨年度から取り組んでいる多摩デポ実践講座は主に多摩地域の現役図書館員を対象に、資料保存に関連したいろいろなテーマを取り上げた実践的な講座として開催していきます。

コロナ禍で、この間、講座・講演会などの事業が十分に出来ませんでした。出来ることから、会員の皆様のご支援・ご協力をいただきながら前に進めていきますと考えています。意見交

換会や総会などにご参加いただき、議案書の内容など多摩デポ活動についてのご意見をぜひお寄せください。



2022年度 通常総会のご案内

□日時 5月28日(土) 午後2時～3時

□会場 調布たづくり1001 学習室

- ▶会場にお出でになる場合は、マスク着用等に協力ください。
- ▶総会成立のため、どなたもぜひ、書面表決票の事前提出をお願いします(会場に来られた方にはお返しします)。

□書面表決票の提出の締切 5月20日(金)

- ▶ 総会記念講演会は後日、配信で行います。

Zoom L146N

会員の意見交換会を開きます

(議案書の説明・質疑あり)

5月17日(火)

午後7時30分～9時

多摩デポ会員の意見交換会をZoomによるオンラインで開催します。我慢しながらの暮らしが続く近況や気分、多摩デポや図書館事情など会員と理事、事務局員が率直で自由に話せる場として設定しました。

外に出にくい現在、自宅などから幅広くご参加いただき、密は避けながら顔を見、声を聞いて話し合いたいと考えます。アクセスするURLは午前中に多摩デポ会員メーリングリストで流します。出入り自由ですので、都合のいい時間だけでもご参加ください。

理事会からは午後8時頃から30分間は議案書の説明と質疑を行います。聞いて

表決の判断の参考にしてください。書面表決票の提出締切は5月20日(金)です。

受信テスト：Zoomはインターネットにつながるパソコン、スマホ、タブレットを持っていただけたでも参加できます。受信テストを5月15日(日)午後2時～3時に行います。アクセスするURLは午前中にメーリングリストで流します。Zoomの経験がない方はこの時間にお試しください。使い方の説明などはメール、電話でもします。まずメールでご相談ください。

会員メーリングリスト未加入の方は…この機会に登録してください。名前とアドレスを書き、「メーリングリスト希望」と、メールしていただければ登録します。※事務局宛メールはHPの画面左下からが便利です。

総会記念講演会 予告

『(仮題) 地域資料と

デジタルアーカイブ』

講師 保坂一房

まだ総会会場への来場を促しがたいことから、総会記念の講演を録画して後日会員の方へ配信します。

保坂一房氏が室長を務める「たましん地域文化財団歴史資料室」はJR国立駅南口の多摩信用金庫の上階にあります。1991年の開設以来、多摩の広域の郷土資料を収集している専門図書館です。図書や雑誌ばかりでなく、絵葉書、地図、ポスター、チラシ、写真など広範囲の資料を収集し、1975年創刊の季刊郷土誌『多摩のあゆみ』を編集・発行しています。

この歴史資料室は、地元の昔のことを調べ、知りたい方のお手伝いをする地域の図書館にとって大変頼り

になる存在。全国の図書館事情を考えると、地域に専門の歴史資料室があることは、多摩地域の図書館のとても有り難い優位性です。

保坂氏は昨年度から多摩デポ理事をされていますが、実は2008年の第一回多摩デポ講座の講師で、そのお話は『地域資料の収集と保存』(多摩デポブックレット第2号)になっています(既に品切れ)。

近年、保坂氏はどのようなことを考えられ、歴史資料室はどんな事業をされているでしょう。講演とともに所蔵資料やデジタルアーカイブの紹介をかねた内容に作り、配信によって近日、会員へ公開します。

資料検索やデジタルアーカイブは歴史資料室のホームページから見ることができます。講演の配信準備ができましたら、会員にはお知らせします。

多摩デポ実践講座 第二回の実施報告

12月に開催した第一回の実践講座「どうして、あれが検索でヒットしないの？」は、参加者を多摩地域の現役公立図書館員に限定しましたが、第二回は一般の会員の方とともに、多摩デポの〈図書館で収集した資料を長期に渡りしっかりと保存し、求められれば速やかに提供できるようにしたい〉という活動を多くの方に知ってもらいたいと、日本図書館協会メルマガの「集会等のお知らせ」にも案内を出して3月8日に開催しました。

参加者は16名。申込みは23名ありましたが、開催が年度末ということもあつたためか、実際に参加されたのは少数に留まりました。愛知県・富山県など遠方からの参加、大学図書館から

の参加もあり、Zoom開催の強みを感じました。

今回は、NDLサーチ、Cinii、都立図書館統合検索、カーリルで

①書名検索
②著者名検索
③記号入りの検索語
④ヨミが不確実な検索語での検索時には注意しなくては確実にヒットさせることはできない、ということに気付いていたかどうか、次の4つの事例を出しました。

①『買物籠をさげて図書館へ』 萩原祥三著 創林社 1979年刊を書名検索する。

②「竹内哲(さとる)」氏の著作には、どんなものがあるか著者名検索する。
③「らき☆すた」 美水かがみ(よしみずかがみ)著 角川スニーカー文庫 な

ど、☆や♥などの記号を含む検索語の場合
④『都会のトム&ソーヤ』や『3.11を忘れない』などヨミが不確実な検索語の場合

①は、「籠」の字の入力がミス。この字を知っているからと入力して、都立図書館統合検索で検索すると、国分寺、国立、羽村、東大和の各市の所蔵はヒットしません。Ciniiではヒットしますが、書誌表記は「籠」になっていて、違和感を覚えます(この現象は、稲城、立川、福生、都立も同様)。また、Ciniiでは、この書名をひらがな検索するとヒットしません。NDLサーチとカーリルでは、「籠」でも「籠」でも「かご」でもヒットします。

②「竹内哲(さとる)」の「哲」の文字の入力が難しいから

と、都立図書館統合検索で「竹内さとる」と入力して検索すると、多摩地域の図書館の多くはヒットしません。しかも、「竹内哲」で検索するより「たけうちさとる」とひらがな検索したほうがヒット件数が多い自治体が多数あります(ただし別人物の可能性もあることに注意)。NDLサーチでは、「竹内哲」で完全一致検索するより「竹内さとる」で検索した場合に、記事・論文、児童書、デジタル資料もヒットする上、求める竹内哲以外の著者がヒットしないのが不思議です。Ciniiでは、BooksとArticlesの両方で検索が必要ですが、カーリルでは雑誌論文も含めてヒットします。

③☆や♥など記号を含む検索語の場合、おおむね、記号は無視して検索結果を返

してくるのですが、記号ばかりの書名の場合、戸惑ってしまいます。

④『都会のトム&ソーヤ』は、現物には「都会(まち)の」とかなが振ってあるのですが、「まちのとむそーや」ありますか？」と利用者尋ねられて「都会」を直ぐに頭に浮かべられるのは、児童書に接することが身近な方でしよう。テレビ・ラジオのアナウンスで「さんてんいちいち」を良く耳にしている方は、NDLで「さんてんいちいちおわすれない」と入力してヒットしないのが不思議でしょうが、書誌のヨミに「3・11 オ ウスレナイ」と記述されているのを確認すれば、納得できます。

*ここで記述した検索結果は、今回の講座直前の情報です。

第一回でカーリルの吉本氏が話されたように、カタカナ、漢字、記号などの混じりあった語、一文字だけの書名での検索は難しく、まだまだ改良の可能性があるので、改良実現のために現場で遭遇した様々な事例を出していきたいものです。また、古い資料では、書誌にかな情報が入力されていないこともあるので、一概に(かなでの検索が有効)とも言いきれないようです。システムによつて検索語の処理の仕方が異なるということも頭に入れて検索する必要があります。

ともあれ、検索についての研究やシステムの改良は日々進化しています。使い慣れているはずのOPACでも、しばしば利用方法の確認が大切です。

今回は、目録の将来についても吉本さんからお話し

ていただきました。

Google BooksやNDLのデジタルシフトによつて全文検索の可能性が拡がっており、既に膨大な資料の全文検索が可能になっていきます。そうすると目録に頼らなくとも、個人が検索することで必要な情報を得られるようになることも考えられるということですね。

そういった状況を前提にすると、カード目録や冊子目録の時代とは異なり、図書館員には様々な書誌・所蔵情報に広範囲にアクセスする能力と、検索結果のノイズを減らしていくスキルを共有する努力が求められていくことになるようです。

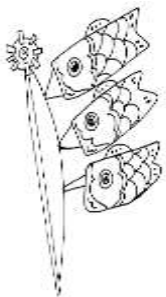
さて、第三回実践講座は、会員全体には告知しませんが、多摩地域の公立図書館職員を参加対象に5月10日にZoomで開催します。

「除籍作業と保存を考える―TAMALAS一括処理システムの活用とHow to 図書館の除籍作業―」と題して、事務局員が発表者になり、カーリルの吉本さんや府中市立中央図書館の笹川さんを交えての60分です。

市町村の除籍作業にTAMALAS一括処理システムを活用するには、その小回りが利く使い勝手の良さを生かした手法があるのではないか。その紹介のために講座の時間中に、書架3段分、120冊の蔵書を一括処理システムにかけてみる実演も行います。詳細は次号でご紹介します。

乞うご期待！

(事務局 雨谷・中川)



(株)カーリルとの
共同研究 定例会報告

「たましん地域文化財団
歴史資料室」の蔵書に市販
図書はそのごく一部で、さ
まざまな郷土資料を所蔵し
ていますが、所蔵資料の目
録は独自の書誌入力をして
きました。これまでは、I
S B N (国際標準図書番号)
が付与された市販図書でも、
I S B N が入力されていま
せんでした。そこで私たち
はカーリルのシステムを使
って歴史資料室の蔵書デー
タにI S B N の機械的附番
(自動推定)を行い、その
結果にI S B N が正しく推
定されているかを検証して
きました。

を事例として』というタイ
トルで報告論文にまとめ、
発表したい雑誌に送ったと
ころです。

会員の協力も得て行つて
きた検証作業の経過は前号
に書きました。ここでは、
〈I S B N 大量遡及入力と
その検証〉という取り組み
の意義について、考えるこ
とを書いていきます。

今回の機械処理による自
動推定作業では、95%の資
料には正しいI S B N が推
定されたことがわかりまし
た。誤推定と疑われる資料
は5%程度でした。この
5%を見つげるためには、
結局、全量を人がチェック
しなければなりません。機
械処理をしたとしても、人
によるこの検証作業(書誌
の同定識別)は不可欠です。
しかし蔵書の書誌データに
I S B N が未入力で、後か
らそれを入力して整備しよ
うとする場合、可能なら一

度機械的な推定処理をした
上でその検証を行う方が現
实的で効率的です。

I S B N は日本の公立図
書館の普及が始まりつつあ
った1980年代初め、市
販図書に発行時点で振り始
められた識別番号。当初は
あまり普及せず、振られ方
の精度も不安定でした。今
では取次を通るような市販
図書には必ず付与されてい
るし、識別番号としての精
度は上がっています。

目録上のI S B N の有無
は、現在では図書の効率的
な検索や書誌の同定識別を
行う上で欠くことのできな
い情報です。できるだけ目
録データにI S B N が入力
されていることが望ましい。
図書館界を見渡せば、I
S B N が付与された図書を
所蔵しているながら、目録上
にI S B N が入力されてい
ない図書館は少なからず存
在します。多摩地域の公立

図書館でも開館初期の頃は
手書きの目録(I S B N 記
述なし)でもあり仕様は不
安定です。それを基に後か
ら電算データ化しているた
め、今もI S B N が未入力
のままの図書館があります。
今回の機械的自動推定の
取り組みは、人による検証
作業の実践も含めて、図書
館の目録への後からのI S
B N の入力整備の実現の可
能性を高めたと言えると思
えています。

図書館の蔵書目録に後か
らI S B N を入力しようと
する場合、I S B N が未入
力の目録データをカーリル
のデータベースと突合し、
機械的に推定されたリスト
を基に人が検証していく方
法は現実的、効率的であり、
それによってデータの精度
確認もできます。この一連
の作業の後、歴史資料室で
は、それまで未入力だった
I S B N を目録の書誌に入

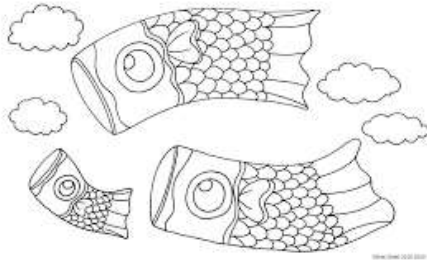
力しました。その結果、ISBNを使った統合的な検索ネットワークにも参加できるようにになりました。

今回の検証作業でも、TAMALASがあることは役に立ちました。ISBNを入力すれば、多摩地域の公立図書館の所蔵状況だけでなく東京都立図書館、国立国会図書館の所蔵の有無の確認もできます。特に国立国会図書館の書誌情報を確認することによって同定識別の判断ができるため、効率的なチェックが可能でした。

一緒に検証作業をしてくれた多摩デポ会員の存在も重要です。16名の会員が検証作業に関わってくれました。検索の効率的な手順、最低限確認し記録するべきデータ、同定識別を行う上で何が問題になるかなど、会員からの情報で活用できる素材もありました。

これらのノウハウを整理していくことは、今後、機械的なISBNの推定作業をする時にも生かしていけると考えます。

なお、4月29日からはTAMALASの検索結果に歴史資料室の情報も表示しています。ただし多摩デポが保存すべきと考える〈多摩地域の公立図書館で最後の2冊〉にカウントしてはけません。歴史資料室の所蔵は参考になる情報なので、活用していただければと思います。



この『通信』の
毎号の索引を作って
くださる方を募集中心！

この会報もついに60号になりました。

多摩デポのホームページにはこれまでの『多摩デポ通信』の全号と記事索引が掲載されています。この記事索引は、会員の方が毎号作っては送ってくださいっていました。この方にご事情が発生して、57号以降、中断されているところです。

どなたか、引き継いで索引を作ってくださいだけの方はいないでしょうか？どんなものか、とりあえずホームページを見てもらえませんか。ご連絡をお待ちしています。

□ 今号の内容 □

- ・2022年度通常総会のご案内
理事長 座間直壯
- ・Zoomによる会員の意見交換会を開きます
- ・総会記念講演会予告
「(仮題) 地域資料とデジタルアーカイブ」
- ・「多摩デポ実践講座」
第二回の実施報告
- ・カーリルとの共同研究
定例会報告
- ・会の現勢

★会の現勢

2022年5月1日現在

●正会員

(個人会員79名)

●賛助会員

(団体会員2団体)

(個人35名)

(団体1団体)

●年会費

正会員 五千元

賛助会員 一口二千元

振込票を同封しました。納入をよろしくお願ひします。